

## ボタン（牡丹） ボタン科ボタン属 \*花期= 4～5月

名前の由来=「ボタン（牡丹）」という和名は中国の花名「牡丹」をそのまま使ったものです、ボタンと同じ時期に日本に伝わった漢音（中国北方系の読み方）では「牡」は「ぼう」と発音するため、当時は「ポウタン」と呼ばれていた、今でも俳句や短歌の世界では「ぼうたん」は健在です。一方中国では「ムウダウ」という発音で呼ばれている、中国では薬用としていたので日本には7～8世紀ころの遣唐使や空海が持ち帰り薬用として解熱、鎮痛、消炎などに「牡丹皮」として使用された、ボタンは落葉低木です、一年に19cm程より成長しない全精力を花に注いでいるのでは、花色は、紫、紅、赤、黄、白色など様々です、当初はこの様に大輪ではなく小ぶりであったが江戸時代に愛されて多くの改良種が作られてた\*花言葉=風格あるふるまい・王者の風格  
立てばシャクヤク座ればボタンと言われるぐらい女性の美しさを表現されるくらい象徴的な存在の花です



## シャクヤク（芍薬） ボタン科ボタン属\*花期= 4～6月

名前の由来=姿がしなやかで優しい様子という意味の「シャク薬」から付いたと言われています、又、ヤクの「芍」という字は「抜きんでて美しい」という意味があり「抜きんでて美しい薬」という説もあります。古来シャクヤクの根は婦人科の漢方薬として多くの女性を救ってきた。原産地は中国モンゴル、日本には平安時代薬草として入ってきた、花は華やかで香りが良く香水に使われる、漢方薬として多く使われています、そら組での常備薬として芍薬甘草湯がある。ボタンとの違い花の香ボタン無い、シャクヤク有る。葉、ボタン艶が無い、シャクヤク艶が有る・ボタン冬に葉は落ちるが幹は残っている落葉低木、シャクヤクは冬枯れて春地表から芽を出す\*花言葉=恥じらい・謙遜・はにかみ



## コモチナデシコ（子持ち撫子） ナデシコ科コモチナデシコ属\*花期=4～5月

名前の由来=ムカゴが付いているとコムチ（子持ち）と言われる、花の咲く前総苞に包まれた状態をムカゴと見誤れコムチだったのでナデシコは小さな花を愛しい子供に例えて「撫子（ナデシコ）」と呼んだ。又、可愛い花の姿から「子どもと同じ様に撫でたくなる花」と表現したことが由来の説もある。同じ仲間に「イヌコムチナデシコ」があるが、肉眼ではほとんど分類できない。1952年に滋賀県で発見された帰化植物、原産地ハヨーロッパ、荒地や河川敷道端などに自生、高さ10～30cm位、葉は2～3cm線形、花は重なり合った総苞の間から顔を出すように5弁のピンク色の花を咲かせる、\*花言葉=コムチは無い。



## オランダカラシ（別名クレソン【阿蘭陀辛子】） アブラナ科オランダガラシ属

名前の由来=鎖国時代外国製品はほとんどオランダを通じて入っていた、明治3～4年頃に日本に導入されたが、外国品はオランダと言う先入観からオランダと付けられ、日本では付け合わせにする菜をカラシナを用いていたことから、肉などの付け合わせに付けられる菜と言うことで、カラシナとなった等諸説ある、栽培していたのが用水路を経て逸出、野生化して湿地や水辺に群生している、葉は奇数羽状複葉でビタミンC、カリウム、鉄分など多く含まれている、一部ではガンの制御作用があると言われている、\*花言葉=不屈の力・安定・着実・忍耐力 \*花期=4～5月



## マンネングサ（万年草） ベンケイソウ科マンネングサ属\*花期= 4～11月

名前の由来=乾燥に強くなかなか枯れず一年中緑の葉っぱを絶やさないことが由来、多肉質の葉を持つ仲間が多い、メキシコマンネングサ・コムチマンネングサ・オウシュウマンネングサ・マルバマンネングサ・ツルマンネングサ、等々多くある。葉っぱや茎などに水を貯めることが出来る多肉植物の1種  
今回多く見られたのは、道路脇の溝の中に生えて黄色の星形の花が咲いていました。

\*花言葉=静寂・私を思ってください・枯れることのない愛・星の輝き



## コマツヨイグサ（小待宵草） アカバナ科マツヨイグサ属\*花期= 6～10月

名前の由来=コは小さい、マツヨイグサは宵を待って咲くことが由来、夕方から夜にかけて花を咲かせる不思議な植物です、コマツヨイグサの花色は黄色ですが翌朝つぼむと赤味を帯びてきます、同じマツヨイグサの仲間には、アレチマツヨイグサ、オオマツヨイグサ等ありますが、花が萎んでも赤味を帯びません、又、茎が匍匐することもない、コマツヨイグサのみが茎を匍匐させ斜上して花を咲かせます。夜、花を咲かせる特徴は夜活動する蛾が蜜



## コブタナ（小豚菜） キク科

今回の集合場所朝倉駅前の花壇に群生していた、ブタナに似るが小さく花弁が多くあるので私は知らないで、スマホで検索してもらいましたら、コブタナと出ました、道中にも同様の花を多く見ました、インターネット、帰化植物図鑑、他で調べても同品種はありませんでした。どなたか調べて頂けたらありがたいです、スマホで出たのですからあるはずですが、私のスマホでは機能が無いので